



第31号



北陸支部 主な日程 ●●●●●●●●●●

3月13日 支部大会投稿〆切

5月17日 支部総会&講演会
「空間と構造—私にとっての構造デザイン」
斎藤公男（日本建築学会会長）

7月26・27日 支部大会&講演会（災害）

親と子の建築講座のご報告

金沢工業大学 土田義郎

石川支所では、2007年にはじめて「親と子の都市と建築講座」を実施しました。講座タイトルは「お城をつくろう!」。「城」をテーマとして実際にミニチュア模型を作成するものです。力の流れ、形の美しさを自分自身で感じ取りながら石垣と天守閣の模型をつくりあげます。これは広く一般の方、特に子どもたちにも建築・都市に興味を持ってもらい、造形や力学的な面白さを知ってもらうための活動と位置づけたものです。

最初は、あらかじめ作りおいた紙粘土のブロックを石に見立て、ボンドを使って石垣をくみ上げるという作業です。形が微妙に異なるので、うまくくみ上げるのに苦労していました。次はペーパークラフトの天守閣です。屋根を組み合わせたところが特に難しかったようです。それぞれ好みの色を塗って自分らしさを出していきます。出来上がったお城は石垣とあわせて高さが約20cmです。持ち帰って部屋に飾られていることでしょう。

参加者は小学校1年生から6年生までの子ども11名と、その保護者である大人が14名でした。お父さんはつい夢中になり、子どもよりも一生懸命になってしまう姿も見られました。

修士1年生の学生を中心に学部3年生も含め学生9人が準備にかかわってくれました。石垣用の粘土ブロックを何百個も作ってくれたり、天守閣の型紙を作ってくれたり、学生の助けがなければこの事業は行えませんでした。記して謝意を表します。

<実施概要>

日時：2007年11月18日(日) 10:00～17:00
場所：金沢市教育プラザ富樫131 研修室(1号館3F)
参加費：無料



親子で協力。主導権を握っているのはどっちも完成したお城を前にした振り返り。



学生によるお城の豆知識講座。



学生による作り方の指導。



個別に指導に当たります。

建築文化週間 2007のご報告(富山支所)

「こどもたてもの探偵団」

にみんな集まれ!

富山大学 堀江秀夫

今年で3回目となる富山支所の建築文化週間行事である。三度目の正直どおり、3回目にしてやっと晴天下で行うことができた。

子どもの頃から建物や街並みへの関心を深めることを目的に、小学生を対象とした街並み探検のワークショップである「こどもたてもの探偵団にみんな集まれ!」を、去る2007年10月6日(土)に富山県高岡駅前のウイングウイング高岡を拠点として行った。

いつもの見慣れている建物をデジカメで切り取って持ち帰り、「反対の感じのする一組のたてもの」を「対になる言葉」とともに発表する内容で、総勢7チーム30人の地元の子どもたちが



路面電車の中で地図を見ながら探検場所を探す子どもたち



途中下車を繰り返す子どもたちとアルバイト学生

参加した。昨年の参加した子どもが今年も参加してくれ、リピーターがでるまで定着した。

子どもたちは「たてもの探し」のため、9時30分に高岡駅前から郊外に向かう路面電車「万葉線」に乗って元気に出発。各チームには、安全確保と写真撮影補助のため、学会員と学生アルバイトが付き添っている。子どもたちは、「たてもの」がありそうな場所を地図で探して近くの駐車場で降りては、青空の下、高岡の街並みを観察しながらパチパチ写真に撮り、また路面電車に乗って次の探検場所へ移動を繰り返した。

昼にはウイングウイング高岡に再集合し、昼食を取りながら子どもたちは、学生アルバイトと協力して持ち帰った建物や街並みの写真を整理し、一人ひとりが「反対の感じのする一組のたてもの」を「対になる言葉」とともにまとめたパワーポイントのスライド作りを行った。全チームの作業が終わった時点で、チームごとにスライドをスクリーンに写しながら、一人ひとりが「たてもの」の説明と感想を発表した。コンピュータや液晶プロジェクターを使った人前での発表に、どの子どもも緊張と興奮の一瞬であった。

この発表に対して、そうなんだ！という新しい納得を発見、誰もが気づかなかった独創的な感性でたてものを発見、みんなの探検の新しい楽しみかたを発見、まちの歴史をふと感じさせるたてものを発見、路面電車の新

しい楽しみを発見、まちを楽しく演出しているたてものを発見、たてものを見る視線を発見、といった功績を称える探検団賞をチームごとに授与をして午後4時にワークショップを終了した。



「こどもたてもの探検団」 にみんな集まれ!

「こどもたてもの探検団」に入ると、探検団員は探検活動が楽しくなる。探検活動を通して、まちの歴史や文化を学び、発見する。また、探検活動を通して、まちの歴史や文化を学び、発見する。また、探検活動を通して、まちの歴史や文化を学び、発見する。



探検団員は、探検活動を通して、まちの歴史や文化を学び、発見する。また、探検活動を通して、まちの歴史や文化を学び、発見する。また、探検活動を通して、まちの歴史や文化を学び、発見する。



小学校に配布したナフシ

建築文化週間 2007 のご報告 (石川支所)

「金沢・野々市の建築

- 歴史的遺産から最新技術まで -

金沢工業大学 土田義郎

北陸支部石川支所としては標記見学会を企画・実施した。実施日時は2007年10月21日(日)の午前9時から午後4時まで金沢駅前を集合地点として、貸し切りの大型バスで移動した。参加者は17名(申し込み24名、欠席7名)地元金沢の学生が大半を占めたが、一般の方で静岡から参加された親子連れもあった。山崎幹泰氏(金沢工業大学准教授)と土田義郎(金沢工業大学教授)が全行程を引率した。

最初に、金沢駅東口に集合したので「もてなしドーム」を見学し、その特徴について引率の山崎幹泰氏(金沢工業大学准教授)が解説した。

バスに乗り込んで最初に訪問したのは、香山壽夫建築研究所設計による野々市町役場新庁舎(竣工 2004年

12月)である。設計コンペの審査を務め、また、役場内情報交流館の館長を務める竺覚暁氏(金沢工業大学教授)の案内で建築内外を見学した。

役場周辺での昼食の後、金沢市民芸術村(竣工 1996年10月)に向かった。この施設は旧大和紡績工場のコンバージョン事例として、設計に当たった水野一郎氏(金沢工業大学教授)が解説した。

最後に訪問したのは、石川県総合スポーツセンター(建設中:2008年3月竣工予定)である。建設工事副所長の新村達也氏(石川県土木部営繕課)の案内の元、竣工前の状況を見学させていただいた。

当初予定通り、午後4時には金沢駅に帰着することができた。設計者や専門家らによって普段気がつかない点を指南していただいたり、目にするものの少ない建設途中の状況を見せていただいたりしたことで、参加者にとって大変刺激になる一日になったと思う。



野々市町役場新庁舎の見学



金沢市民芸術村の見学



石川県総合スポーツセンターの見学

新潟 支所だより

県内大学連合による震災復興支援

新潟工科大学 建築学科 田口太郎

新潟県では昨年7月に発生した新潟県中越沖地震の後、新潟大学、新潟工科大学、長岡造形大学、長岡技術科学大学の県内の都市計画系を有する大学が連携体制をとり、被災半月後の8月上旬から復興に向けた調査を中心部の「えんま通り商店街」において実施し、40名前後の学生が参加した。その後も復興に向けたイベント「笑福市」へのボランティアや、中心商店街である「えんま通り商店街」独自の復興ビジョンづくりの支援など、地元大学を中心とした大学連合チームでの復興支援、学生・教員の参加のもと進めている。

被災がきっかけとはいえ、県内大学で都市計画を専攻する学生間の相互交流が図られた点、震災復興という非常に具体的課題に直面した状況を経験出来た点など学生にとっては大きな意味を持った活動であり、被災地においても大きな力になったといえる。

被災地においても大きな力になったといえる。

地震をはじめとした自然災害は今後日本各地で発生することが避けられないが、学会をはじめとした全国組織による支援は被災直後についてはある程度想定されるが、長期的復興プロセスにおいては十分には期待できない。今後は、各地で発生する災害の度に、被災地の周辺大学が連携体制を構築した上で、きめ細やかな支援、持続的な支援を行うことは重要であり、中越沖地震における県内大学連携による支援の取り組みを被災地支援の一つのモデルケースとして示していきたい。



福井 支所だより

地方の工務店経営者として、

毎日奮闘しています

技建工業株式会社代表取締役社長 上田 祐広

私は地方の小さな建築専門工務店の4代目社長です。4代目と言っても、1・2代目社長と3代目社長である私の父とは同世代ですので、世代的に言えば2代目だとも言えますが…。会社の創業のいきさつが仲間内で出資し合った会社であったが故に、このような歴史を辿っています。そして事業継承としては、1・2代目社長の息子さんは跡を継がず、私は幼少の時から父の後ろ姿を見て、「将来は父のように会社の社長さんになるんだ。」という夢を思い描いていたんだろうと思います。

そんな私が建築を志し、大学卒業後大手ゼネコンに入社、その後しばらくして帰郷し父の経営する会社に入社しました。自然の成り行きです。「サラリーマンより経営者の方が働き甲斐があるだろう。」というのが、そのころ意識していた動機でした。(昨今のあまりの業界の厳しさに、選択を誤ったかなとも時には思ったりするのですが…) 目標の社長に就任したのが、37歳の時。できるだけ早めに苦勞をしておきたいと思い、先代の勧めに従って1999年の正月から社長になりました。右肩下

がりの経済状況の下、売上はかろうじて20億円をキープし黒字決算をしていましたが、わずかにしか利益を残せる力もなく、社員への賞与配布時には必ず苦しい言訳をしていたのが思い出されます。現在は売上高40億円ほどとなり、利益もコンスタントに出せるようになりました。エリアを北陸・中京方面にも拡げ、民間非住宅建築工事を中心に立地開発を取り入れた営業を展開中です。「建築トータルサービス企業へ」をキャッチフレーズに頑張っています。

もしウチのような会社が生き残れるとしたら、その一番の原動力は「経営理念の社員との共有」であろうと思います。「全社員の物心両面の幸せを追求すると同時に、建築を通して地域社会の進歩発展に貢献する。」私は、この経営理念の元に集まった社員が、個のためだけでなく全体のために働くことが大切だと説き、率先垂範で自ら実践しようと真剣に頑張っています。その後ろ姿に共感し同士となってくれる社員が数多く存在するようになってくれば、必ず生き残っていけると思っています。

建築業界の生き残りにはいろいろな方法があるでしょう。私は私のスタイルで、建築施工のプロとして誇りを持って、この厳しい局面を生き抜いて行こうと思っています。

長野 支所だより

『集成材はサステナブルな材料』

齋藤木材工業株式会社 北村 俊夫

私どもは、国産材の唐松や杉を原料に構造用集成材（以降、集成材）を製造しているメーカーです。集成材は、ラミナと呼ばれる厚みが30mm程度の板を乾燥し、接着剤で積層したものです。板の状態で乾燥するため材料の乾燥が十分にでき、また、ラミナ1枚1枚のヤング係数を測定し管理することにより、構造的に安定した材料を製造できます。ラミナを長手方向にジョイントし積層することにより、せいはいは2000mm、長さは21mまでの部材が製造できます。よって、材の形状と長さが自由になり、湾曲材も製造も可能です。

集成材の特性を生かした建物として、湾曲集成材を用いた3ヒンジ山形ラーメンが挙げられます。写真1は断面180mm×1,000mm、高さ12m、スパン25mのフレームを用いた体育館の建方写真です。この構造により、体育館のような大空間を作ることができます。また、集成材はその材料の信頼性により、ドーム等の大型建築物



写真1 3ヒンジ山形ラーメンの体育館

にも採用されます。写真2は世界最大級（長径178m、短径157m）の秋田杉集成材のドームです。

私どもは「次の世代に緑の山を伝える」という企業理念のもと、国産材（特に長野県産材）を利用した製品を提供しています。有限の資源をめぐる環境問題が深刻になる昨今、環境への負荷を減らす循環型社会の一つの答えとして、国産材の有効利用が考えられます。木材はサステナブル（持続可能）な材料です。「木を使い、木を植え、また木を使う」という循環型社会の一助となるため、自然と共生できる製品と木造建築物を提供し続けたいと考えています。

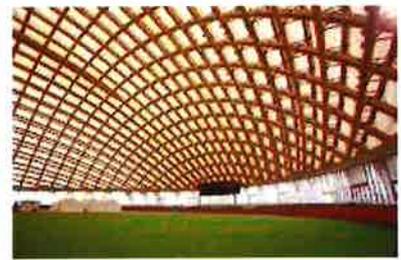


写真2 樹海ドーム 大館市
(平成10年完成)

富山 支所だより

富山大学造形建築科学コースのめざすところ

富山大学芸術文化学部教授 貴志 雅樹

はじめに

富山県初の建築系コースが、富山大学芸術文化学部の中に、造形建築科学コースとして平成18年度からスタートして早2年が過ぎようとしています。芸術文化学部は一学部一学科制で、造形芸術、デザイン工芸、デザイン情報、文化マネジメント、造形建築科学の5つのコースを持ち、造形建築科学コースは、インテリア・建築系と金属、高分子等の素材研究による製品科学系に分かれます。そこで当コースの特徴を、より解りやすく理解していただくために、以下の3点にまとめました。

①デザインに重点を置いた実務能力が身につく設計教育を徹底して行う。

知性と感性の融合というのが、当学部のモットーです。21世紀は、専門領域に偏らずトータルな視野を持つ人材が求められています。その意味でも従来、工学系だった建築が、専門的に偏りがちな工学系から芸術文化の領域にできたことは、望ましい姿だと思います。建築とは、工学、芸術の側面はもとより、人間の営みすべて、自然風土、社会、経済や文化歴史と深い関わりを持つからです。

しかし、高校訪問や進路・担当の先生方への説明会においては、芸術系の建築と工学系の違いをよく質問されます。とくに卒業後、2年で一級建築士の受験資格があるのか、よく質問されてきて、その点では工学部の建築学科と同じ条件と答えてきました。

②他コースとの融合により、幅広いデザイン教育を行う。

富山大学芸術文化学部では一学部一学科制の利点をいかし各コースの特徴ある授業を受講できるという融合教育を目指しています。メディアアートなどの先端芸術、地域に根ざした伝統工芸、地域文化との触れ合い、家具作りなどリアルな物作りの体験、ビジュアル、プロダクトデザインを通してデザイン能力の向上を図る、文化プロデュース、文化施設の運営方法など幅広く学べることができます。これらを専門とする建築に生かすことができるということは。

③スタジオ教育（物作りのリアリティー）

前建築学会副会長の重村力神戸大学教授を大学でお招きして、建築教育について講演をして頂いたことがありました。そこで問題になったのは、パソコン世代の学生に物作りのリアリティーを持たせるか、実務能力を身につけるにはどういう教育方法が有効であるか、ということでした。

物作りのリアリティーを持たせるため、建築設計を始める前に、椅子などのデザインと製作を通して、材料、強度などデザインと実際の物との関係を、頭ではなく身



写真：2年生前期「空間デザインB（家具）」学生作品

体で理解させる必要がある。実務能力を身につける設計課題においては、欧米で行われているスタジオ教育が有効であるという結論に達しました。幸い、当学部には、工房棟もあるので利用できます。また、当コースでは20人の学生という少人数制の教育ができるため、学生を3～4グループに分けたスタジオ教育が可能です。現実的な課題を地域社会に求め、問題解決から設計にいたるまで各スタジオで行ってゆく、建築計画、構造計画、設備計画等の各授業も、座学だけではなく、スタジオにおいて、演習課題に即して行っていきたくと考えています。

各科目を講義として受けるだけでは、なかなか学生の身につけません。実際の設計演習で行っている建築を表現させるために、必要な知識として吸収できるように、スタジオ教育に取り込む。施工や積算の科目についても、

石川 支所だより

月見光路プロジェクト「広坂オブジェ」

金沢工業大学 環境・建築学部建築学科 下川雄一

金沢市中心市街地活性化を目指して“あかり”を使ったオブジェで街を彩る月見光路プロジェクトのメンバーによって、平成19年12月1日（土）～平成20年1月25日（金）にあかりを使った店舗ディスプレイ・イベント「広坂オブジェ」が開催された。

この「広坂オブジェ」の取組みは、月見光路プロジェクトの1・2年生を中心としたメンバー23名が、広坂商店街の活性化を目的に、店舗のディスプレイ内をあかりのオブジェによって彩るという課題に取り組むものである。

学生は、2つのチーム（1年生チームと2年生チーム）に分かれ、担当指導教員（金谷末子教授、川崎寧史准教授、宮下智裕准教授、下川雄一准教授、西村督准教授）の指導のもと、「つながり」というテーマをもとにそれぞれがあかりのオブジェの制作に取り組んだ。各チームが制作したオブジェは、広坂商店街の事務機・事務用品の専門店「大気堂」（金沢市広坂1丁目）のご協力を得て、約2ヶ月間、そのショーウィンドウに展示させて頂いた。

前期（12月1日～1月11日）には2年生チームの作品を展示。「T I E S」（タイズ）と名付けられた作品では、人と人との繋がりがコミュニケーションの大切さを意図して、アクリル板を幾何学的に貼り合わせた宝石のようなミニオブジェが幾重にもつなげられた。スポットライトをあびた宝石の側面の一部には、街行く人々、学生達やその家族など、多くの人達の手をつなげた写真が貼られており、チカラを合わせる事、人が交わることの大切さが伝わってきた。

後期（1月13日～25日）には1年生チームの作品を展示。「HOP！STEP！JUMP！」と名付けられた作品では、赤・青・黄に輝くアクリルの箱を螺旋階段状に吊るし、明るい未来や将来の希望へとつながる「道」を表現した。鮮やかな階段の色の変化は、雪（白）に埋まった草花が春になって芽を出し

自分が設計している建築について学習することで身につくものだと思います。スタジオ教育の例は、マサチューセッツ工科大学やハーバードなどに見られます。大きなスタジオの中で、学部の各学年の学生から大学院生までグループに分かれてはいますが、一つの空間の中において、互いにアドバイスを与え合っています。当建築コースも、2～4年生まで隣り合ったスタジオで、各自、自分のデスクを持ち、互いに影響の与え得る環境を作り出したいと考えています。

以上が、造形建築科学コースのビジョンです。しかし、当学部の教育だけでは不十分で、インターンシップや講評会など、地元の実務経験豊富な建築関係の方々のお力を借りながら現実のプロジェクトに目が向けられるリアリティーのある学生を育てたいと考えています。

（緑）、だんだんと色づき（黄）、花が咲く（紫・ピンク・赤）イメージからできている。

今回実践した「広坂オブジェ」の活動では、デザインのコンセプト設定から現場の施工や店舗の方とのスケジュール調整や予算管理に至るまで、2ヶ月間のすべてを学生自らが管理することが求められ、活動していた学生にとっては苦勞が多かったようだ。中でもチーム内でのデザインを検討するディスカッションの場では、互いの意見を調整・集約することが難しく、何度となく衝突していた。

しかし、一つの目的に向かって学生同士が真剣にぶつかり合う場面は学生自らが成長する上で貴重な経験となり、事実、オブジェを店舗内に設置する段階で見られた学生のチームワークは、取組み当初とは比べものにならないくらい充実していた。制作したオブジェにあかりが灯されたとき、学生からは歓喜の声が上がり、涙ぐむ学生もいた。

今回の活動を通して学生は、建築系の専門スキルに加え、作業に対する知識やスケジュール調整、互いの意見の調整・集約、店舗の方とのコミュニケーションなど、建築系の技術者にとって必要な人間力の重要性を理解することができたのではなかろうか。今後はそのスキルに磨きを加え、次年度以降の月見光路プロジェクト活動においてリーダー的存在として活躍してくれること、更には、その経験を経て大きな人間となって社会へ巣立っていくことを期待している。

参考：金沢工業大学・月見光路ホームページ <http://www.kanazawa-it.ac.jp/pr/j/tsukimi/>



1年生チームの作品「HOP！STEP！JUMP！」



2年生チームの作品「T I E S」

支部のお知らせ

【北陸支部大会の論文募集】

〆切3月13日(木)17時必着

2008年7月27日開催の研究発表会で発表する論文を募集します。論文、実務者による技術報告、建築作品の紹介原稿等を受け付けます。会員ならどなたでも投稿していただけます。

投稿料：投稿は一編につき4000円

実務者による技術報告 2000円

トピックステーマ(地震と建築)2000円)

研究報告集を差し上げます。

詳細は：<http://news-sv.aij.or.jp/hokuriku/sibutaikai/index-sibutaikai.htm>

【北陸支部総会のご案内】

2008年5月17日(土)

富山県民会館 304号室

富山市新総曲輪4-18

TEL: 076-432-3111

14:00 ~ 通常総会

15:00 ~ 記念講演会

「空間と構造—私にとっての構造デザイン」

講師：齋藤公男

日本建築学会会長

日本大学理工学部教授

17:00 ~ 懇親会 同館8階「キャッスル」

【2008年度北陸支部大会のご案内】

金沢工業大学

7月26日(土)13:30 ~ (8号館予定)

シンポジウム(災害復興を予定)

北陸建築文化賞の表彰式と表彰作品の発表会

懇親会(金沢工業大学23号館)

7月27日(日)9:00 ~ 15:00(8号館予定)

研究発表会

学生による語り合いのシンポジオン

併設行事：

北陸建築文化賞授賞作品展示

北陸支部大学高専卒業設計作品展示

2007年度支部共通事業設計競技優秀作品展示

【作品選集】

建築学会で発行される作品選集への作品募集は、5月〆切予定です。詳細は後日、支部ホームページに掲載します。

【2008年度日本建築学会北陸支部奨励研究】

募集の〆切は、2008年7月25日の予定です。

詳細は後日、支部ホームページに掲載します。

【その他】

□ 北陸支部会報は、ホームページ(<http://news-sv.aij.or.jp/hokuriku/index.htm>)に掲載しますので、ご覧ください。

□ 学会事務局のファックス番号が076-220-3344に変更されました。

北陸地域の関連行事

【武生まちなか、粋なまち暮らしを楽しもう】

平成20年3月8日(土) 13:30 ~ 17:00

場所：越前市生涯学習センター5階講堂

(越前市役所裏)

参加料：無料

申込先：建築士会南越支部事務局

TEL 0778-24-4788

FAX 0778-24-4779

都市再生モデル調査として取り組んだ多彩な活動を報告し、次の活動につなげるための発表会を行います。街づくりに興味をお持ちの方は、気軽にお申し込みください。皆様のご参加をお待ちしています。

【軽井沢景観国際会議】

2008年6月に開催される予定です。詳細は次号をお楽しみに。

**このコーナーに掲載する、北陸支部内での建築関連情報をお寄せください。*

日本建築学会北陸ニュース「AH!」第31号

発行日 2008年2月 発行

発行 日本建築学会北陸支部広報部会

富永 禎秀(新潟) 丸谷 芳正(富山)

高村 秀紀(長野) 下川 雄一(石川)

五十嵐 啓(福井) 葉袋 奈美子(広報部会長)

事務局

〒920-0863 金沢市玉川町15-1 パークサイドビル3F

TEL 076-220-5566 fax 076-220-3344